

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和4年5月分）

【製造業】

○製造業は、3月の鉱工業生産指数は前月比11.9%と上昇。ヒアリングでは、上海ロックダウン等による生産効率悪化に伴う費用が増加し、営業利益が5割弱減少したとの声や、半導体不足や中国への輸出減少による売上減少に加え、原材料の高止まりが業績を圧迫しており、今後の見通しが立たないとの声が聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、3月の鉱工業生産指数は、家具、食料品及び木材・木製品以外で上昇した。ヒアリングでは、受注は増加しているものの、あらゆる原材料の高騰が続き、価格転嫁が追いつかないという声や、材料の入荷遅延により、納品までの期間が伸びているという声、LNG価格が高騰しており、4月から値上げを実施しているが、本格的に収益改善するのは今秋以降になるとの声が聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、4月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比で25.0%増加した。ヒアリングでは、DX化に向けてインフラも含めたシステム投資を増額する計画があるとの声や、脱炭素社会に向けた商品開発や、受注先からの要請で太陽光パネルを設置したとの声がある一方で、物流倉庫用の土地を確保し融資の内定を受けていたが、建築価格上昇により建設を見送ったとの声も聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、4月の販売額は、ホームセンター及び百貨店・スーパー以外で増加し、全体で僅かながら増加した。ヒアリングでは、生鮮食品スーパーの一部商品に価格上昇が見受けられ、飲食店にも影響が出始めているとの声や、価格高騰により家電が全く売れず、消費の冷え込みが顕著で先の見通しが立たないとの声が聞かれた。

【観光】

○観光は、4月の観光客数、宿泊者数ともにコロナ前の令和元年同月比を大きく下回っている。宿泊施設からのヒアリングでは、県民割が隣接県・地域ブロックまで拡大したため、宿泊客数が増えているという声がある一方で、原材料が値上がりしており、経営に大きな影響を与えているとの声が聞かれた。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、4月の制度融資実績は、件数、金額ともに12ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からは、ウクライナ情勢や原材料価格上昇による不確実性の高まりから、手元流動性資金を厚くする動きがみられ、設備投資については慎重になっているとの声が聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、4月の有効求人倍率は1.61倍と8ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、新卒以外にも良い人材が確保できているという声がある一方で、雇用しても長続きしないことがあり、製造現場の不足が続いているという声や、募集をしても賃金が安く応募者がいないとの声が聞かれた。

【景気動向】

3月の景気動向指数（一致指数）は前月比で2.5ポイント上昇し、4月の中小企業の景況感は同比で1.7ポイント上昇した。